

令和3年度 園だより

こうきた 1月号



杉並区立高円寺北子供園

令和4年 新しい年を迎えて・・・

園長 須田 なぎさ

あけましておめでとうございます。令和4年、そして3学期がスタートしました。

今年の干支は、「壬寅（みずのえとら）」です。「壬寅」は厳しい冬を越えて、芽吹き始め、新しい成長の礎となるイメージがあるようです。まさに、高円寺北子供園にとっても令和4年は、令和5年度から始まる3歳時保育、給食の礎となる園舎の改修工事が始まる年です。ハード面だけではなく、新しい高円寺北子供園のために、保育内容や体制などについてのソフト面もしっかり準備を進めていきたいと思っています。

さて、幼稚園教育要領には「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示されています。10ある姿の中の一つに、「自立心」があります。自立心とは、「身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信を持って行動するようになる」とあります。

子供園では、自分で“これをしたい”と遊びを選び、主体的に関わることを大切にしています。しかし、様々な活動の中で、子どもたちは成長していくと、「したい」だけではなく「しなければならない」ことの自覚が芽生えてきます。例えば、まだ遊びたいけれど、「片付けないといけない」と気付いたり、コマ回しのためには、「繰り返し練習しなければならない」と、頑張ったりできるようになります。自ら「こうなりたい」という思いをもち、そこに向けて自分の力で努力して得たものは、その子にとってかけがえのない学びであり、力と自信になります。その力と自信は、小学校以降の生活をより充実して過ごすことにもつながります。

自立というと、「自分の力で行なうために考えて工夫する」という言葉があるように、「自分一人」でできることを求められているように感じます。しかし、東京大学先端科学技術研究センター准教授 熊谷晋一郎氏によると、「自立とは、依存先を増やすこと」も大切であるとあります。熊谷氏は、脳性麻痺で手足が不自由、お母様と二人三脚で生活をしてこられたそうですが、「親がいなくなったら一人で生きていけない」と気付き、一人暮らしを決意したそうです。そして、友達や社会など依存先をできるだけ増やし生活することで、一人で生きていくことができると確信したそうです。

幼児にとっては、安心安定した依存先は絶対に必要です。しかし、成長し自立するということは、少しずつ保護者・家庭以外の依存先を増やしていくことなのだと思います。ですから、自分の力でできなかったときや失敗したとき、どうしたらいいか考えて、人の力を借りるということを考えられることも大事なことになると思います。お子さんが自分でできることなのに、先回りをしてやってあげたり、考える前に答えを出したりしていませんか？新年にあたり、ご家庭で今一度、お子さんの「自分でできる力」を見直していただき、お子さんの「自立心」を一緒に支えていきましょう。

3学期の教育日数（全員保育の日数）は、5歳児46日、4歳児49日です。一日一日を大切に過ごし、3学期末には、「こんなに大きくなったね」と、保護者の皆様と共有してきたいと思っています。

保護者の皆様、地域の皆様、令和4年もどうぞよろしくお願ひいたします。

《 1月の保育 》

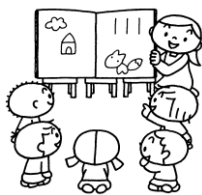


★年少組

冬季休業明けは、引きゴマや絵合わせカード、簡単なすごろくなど、お正月の遊具で遊ぶことを楽しみます。寒さが一層増しますが、園庭では2学期に引き続き、学級の友達と一緒にしっぽ取りや鬼ごっこを楽しみ、寒さに負けない丈夫な体づくりをしていきます。

また、カスタネットや鈴、タンバリンなどの様々な楽器に触れ、学級のみんなと一緒に合奏したり歌ったりして、音や声が合うことや気持ちが合う心地良さを味わえるようにしていきます。

3学期は、年長組がしていた誕生会の司会や飼育物の世話などを見て憧れを感じながら、どのようにすすめていくとよいのか、年長組から教えてもらう機会も設けていきます。そして『次は自分たちが、にじ組になるんだ』という期待をもち、様々な活動に取り組んでいけるようにしていきます。



★年長組

子供園での生活も残り3か月となりました。自分のやりたいことやめあてに向けて考えたり、繰り返し挑戦したりして意欲的に遊びや生活に取り組み、一人一人が充実感や自信をもって修了を迎えられるようにしていきたいと思えます。

投げゴマや縄跳びは、自分のめあてをもって繰り返し遊ぶ中で、一つ一つの「できた!」という思いを大切にしていきます。また、天気の良い日には戸外に出て、ドッジボールや鬼遊びなどをして十分に体を動かし、友達とルールを守って遊ぶ楽しさを味わえるようにしていきます。

学級のみんなでする活動では、友達と気持ちを合わせて歌う心地良さや、いろいろな楽器を使ってリズムや曲想を感じながら合奏する楽しさを味わいます。



《園からの連絡》

年が明けてから、感染者が激増しています。手洗いうがいや消毒の徹底、ソーシャルディスタンスを保つなど、今一度、感染症対策を見直し保育してまいります。予定していた行事も、変更になることがあるかもしれません。引き続き、ご家庭でも、ご理解とご協力をお願いいたします。

<正しい鼻のかみ方を習慣づけましょう！>

鼻水にはウイルスや細菌などの病原菌が多く含まれています。すすった鼻水が鼻の奥に入り耳まで達すると中耳炎の原因になることがあります。鼻水はこまめにかんで、できるだけ出しましょう。しかし、すすっているお子さんを多く見受けます。鼻のかみ方は練習しないとうまくなりません。ご家庭でも正しい鼻のかみ方を教えてあげてください。

★★★★ 正しい鼻のかみ方 ★★★★★

1. 片方ずつかむ（反対側の鼻を押さえておきます）

・両鼻では鼻息で効果的に鼻水を外に出すことができません。

2. 鼻をかむ時には口からしっかり息を吸う。

・口からしっかり息を吸い込み口を閉じ、鼻から息をだすことで鼻水を外に押しだす。

3. ゆっくり、やさしく、少しずつかむ

・強くかむと鼻血がでたり、耳が痛くなったりトラブルの原因になります。



鼻をかんだ後は、手にウイルスや雑菌がついてしまっていることもあるので、手洗いをしましょう。

★★★★ 「鼻をかむ」ことの効果 ★★★★★

1. 病気の再発予防につながります

・鼻をかむことにより中耳炎・副鼻腔炎の再発防止に効果的です。鼻水にはウイルスや雑菌が繁殖しているため、気管支炎や肺炎の原因になる場合もあるので、しっかり残らないように鼻をかめると、いいですね。

2. 口呼吸を防ぐ

・口呼吸は鼻呼吸に比べ口腔内が乾燥し、ばい菌が繁殖しやすいと言われていています。そのため、鼻呼吸に比べ虫歯になりやすく、口臭の原因にもなります。鼻をかみ鼻呼吸がしっかりできるようにしましょう。

3. 食べ物の味がよくわかる

・鼻が詰まっていると匂いを感じないばかりか、味覚も低下してしまいます。

同じ物でもいつもと違うといった場合は、鼻詰まりによって味覚が鈍って

いるかもしれません。

